

ナシ黒星病菌のDMI剤に対する感受性検定

福島県農業総合センター 果樹研究所病害虫科

1 部門名

果樹－ナシ－病害虫発生

2 担当者

柳沼久美子・三瓶尚子・藤田剛輝

3 要旨

県内各地のほ場から黒星病菌を採取し、DMI剤の感受性検定を行った。その結果、感受性の低下はみられなかった。

- (1) 2010年は福島市、須賀川市、相馬市、いわき市の計7ほ場、2011年は福島市、郡山市、南相馬市、いわき市、石川町の計13ほ場から罹病葉および罹病果を採取した。黒星病菌の胞子懸濁液を、あらかじめ薬剤散布した「幸水」または「豊水」の1年生苗木に接種し、発病程度を調査した。発病程度から発病度と防除価を算出、判定した。
- (2) スコア顆粒水和剤 4,000倍の防除価は、99～100と高かった(図1、2)。
- (3) アンビルフロアブル 1,000倍の防除価は、全てのほ場で100と高かった(図1、2)。
- (4) ルビゲン水和剤 4,000倍の防除価は73～98であった(図1、2)。スコア顆粒水和剤、アンビルフロアブルと比較するとやや防除効果が劣った。

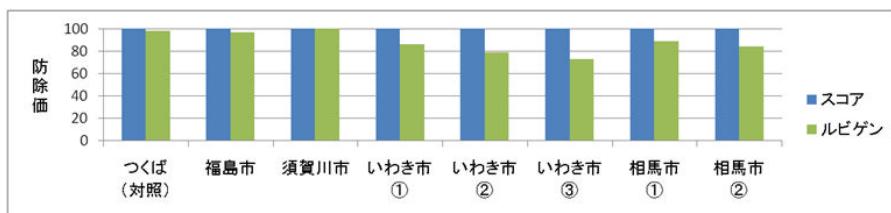


図1 ナシ黒星病菌に対する各種薬剤の感受性検定(2010)

$$\text{防除価} = 1 - (\text{薬剤処理区の発病度}) / (\text{薬剤無処理区の発病度}) \times 100$$

$$\text{発病度} = \sum (\text{発病指数} \times \text{指数別葉数}) / (5 \times \text{調査葉数}) \times 100$$

発病指数：胞子形成病斑数/葉(0:なし、1:1個、2:2～5個、3:6～20個、4:21～80個、5:81個以上)

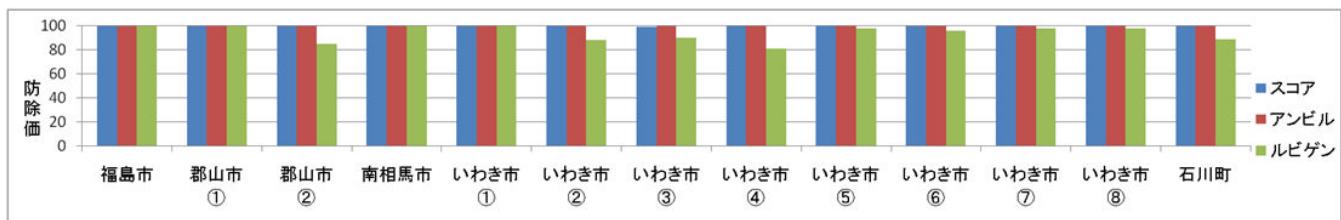


図2 ナシ黒星病菌に対する各種薬剤の感受性検定(2011)

防除価、発病度、発病指数は図1に同じ

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成22年度～23年度
- (2) 研究課題名 ナシ黒星病のDMI剤に対する感受性検定
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成22年度～23年度 福島県農業総合センター試験成績概要